

岩国医療センター



【施設概要】

当院は昭和17年に岩国海軍病院として設立され、国立岩国病院、国立病院機構岩国医療センターと名称を変え今日に至っています。施設の老朽化や付近の道路の渋滞が激しいこともあり黒磯の地(前の病院の場所)を離れ、平成25年に愛宕地域に移転しました。そして、最先端の高度急性期医療に対応できる最新の設備を備えた病院として生まれ変わりました。岩国市を中心に広島県・島根県の一部を含む半径30km、人口約40万人の医療圏において唯一の救命救急センターを有する高度急性期医療を担う地域の中核病院であり、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院の指定を受けています。

【放射線科について】

現在放射線技師は23名在籍しており、一般撮影、回診撮影、骨密度測定、CT、MRI、X線TV、血管撮影、ハイブリッド手術、RI、PET-CT、放射線治療と幅広く業務を行っています。

勤務体制は2交代勤務で、夜間や休日にも緊急検査に対応しています。病院が三次救急医療機関であるため、いつでも脳血管治療や緊急ハイブリッド手術などにもスムーズに対応できるようサポート当番を決め協力体制をとっています。

【周辺環境】

岩国市は山口県の最東部に位置し小瀬川を挟んで広島県と接しています。広島県の中心都市である広島市までは40kmと便利な位置にあります。

岩国市の観光で特に有名なものに、日本三名橋の一つに数えられる錦帯橋があります。その美しい姿は全国から観光客が訪れる人気のスポットで



す。錦川にかかる錦帯橋は川幅約 200 メートルの河川内に 4 つの橋脚を持つ 5 連の木造橋で、中央 3 連がアーチ橋となっている世界的にも大変稀な構造となっています。全長 193.3 メートル、幅員 5.0 メートルで、継手や仕口といった組木の技術によって造られています。1673 年、建立されましたがすぐに流失、改良を加えて翌年再建された錦帯橋は、1950 年洪水で流失するまで 276 年の間、威容を保ちました。流失後、1953 年に再度、木造の錦帯橋として再建されました。現在も伝統的な日本の工法により架け直しが行われており、使用している釘も堅い洋釘ではなく柔らかい和釘を使っています。錦川は河川敷が広く、両側いずれからも美しいアーチを堪能できます。アーチの真下からも見上げることができ、下からは木造アーチ橋の複雑な構造を垣間見ることができます。

緊急事態宣言が解除され、移動制限などない平常な時がもどりましたらお越しいただき、ご自身の瞳でご確認下されると幸いです。